

神奈川県身体障害者連合会会報

身障かながわ

発行 (公財)神奈川県身体障害者連合会
会長 内藤 則義
〒221-0825
横浜市神奈川区反町3-17-2
電話 045-311-8736 FAX 045-316-6860
編集 「身障かながわ」編集委員会
編集委員長 新井 修身
印刷 株式会社あんざい

- 令和5年度事業計画並びに収支予算決まる ..... ①
□ 神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例 ..... ②
□ 返子身障協輝く七十年の歩み ..... ③
□ 令和四年度の綾瀬市身障協会行事 ..... ③
□ 高尾山登山開催案内 ..... ④
□ 神奈川県障害者スポーツ大会 ..... ④
□ 特別全国障害者スポーツ大会 ..... ④
□ 学童通学交通安全指導員 ..... ⑤
□ デフ・キッズスキー・スノーボード交流会 ..... ⑤
□ 私とスポーツ ..... ⑥
□ 県身連行事予定 ..... ⑥
□ 編集室から ..... ⑥

令和五年度事業計画並びに歳入歳出予算決まる

県身連の令和五年度(二〇二三年度)事業計画と収支予算が、理事会並びに評議員会で承認可決されました。

令和五年度(二〇二三年度)の事業予算額は、八千四百七十六万九千円。前年度予算と比較すると六百七十八万九千円の増額となっています。この主な理由は、毎年派遣している全国障害者スポーツ大会の開催県が令和四年度は関東ブロックの栃木県でしたが、今年度は鹿児島県への派遣のため、交通費が大幅な増額となったことが大きな要因です。その他の事業費については前年とほぼ同額となっています。

この他、各地域団体の会員の減少と高齢化により、組織並びに財政基盤の弱体化が課題となっています。

県身連の令和五年度(二〇二三年度)の事業活動は、関係各位のご支援をいただきながら、次の方針のもとに進めます。

一、財政状況の厳しい中、予算の確かつ効率的な執行を図り、地域団体と連携を強化し、誰もが暮らしやすい共生社会の実現に向け、身体障害者・知的障害者・精神障害者に向けた各種事業を行う。
二、障害者スポーツなど、各種事業の充実を図りながら新規会員の獲得を目指す。また、当連合会の自主財源については、経費の節減を進めながら確保に努めるとともに、会員各位の自主的、積極的な参加のもとに法人の目的達成に努める。

令和5年度神奈川県身体障害者連合会事業予算 (単位:円)

Table with 4 columns: No., 事業科目, 本年度予算, 増減. Rows include management fees, personnel fees, meeting fees, etc., totaling 84,769,000 for the budget and 6,789,000 for the change.

# 神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例

## ～ともに生きる社会を目指して～

神奈川県は、令和4年10月21日、障がい者に関係するすべての人が、本人の気持ちになって考える「当事者目線の障がい福祉」を進めるために条例を公布し、令和5年4月1日施行します。県民、市町村、関係団体などが一体となって、「ともに生きる社会かながわ」を目指していきます。

### 1 目的

当事者目線の障がい福祉の推進を図り、もって、障がい者が差別や虐待を受けることなく、自らの望む暮らしを実現することができ、障がい者のみならず、誰もが喜びを実感することができる地域共生社会の実現に資することを目的としています。

### 2 基本理念

全ての県民が人として大事にされ、自分の生き方を自分で決められることや、住みたいと思う場所で自分らしく暮らせるようにすることなど、基本理念を定めています。

### 3 県、県民、事業者及び障がい福祉サービス提供事業者の責務

当事者目線の障がい福祉の推進のための県、県民、事業者及び障がい福祉サービス提供事業者の責務について定めています。

### 4 意思決定支援の推進

- 障がい福祉サービス提供事業者は、「意思決定支援」を実施するように努めなければなりません。
- 県は、意思決定支援の推進に関する必要な情報の提供、相談及び助言等を行うための体制を整備し、障がい福祉サービス提供事業者に対し、意思決定支援に関する研修を行います。

### 5 障がいを理由とする差別、虐待等の禁止

すべての人は、障がい者に対し、障がいを理由とする差別、虐待その他の個人としての尊厳を害する行為をしてはなりません。

### 6 障がいを理由とする差別に関する相談、助言等

県は、障がいを理由とする差別に関する紛争の防止又は解決を図ることができるよう、相談体制その他必要な体制を整備します。

### 7 社会的障壁の除去

県及び事業者は、障がい者から生活しづらいことや困ったことがあると言われなくても、負担が大き過ぎない時は、合理的な配慮を行うよう努めます。

### 8 虐待等の防止、早期発見等

- 県は、市町村その他の関係機関と連携し、障がい者に対する虐待等の防止に関し、障がい福祉サービス提供事業者への啓発及び研修を行うとともに、障がい者に対する虐待に係る通報に関する普及啓発を行い、早期発見及び早期対応のための体制を整備します。
- 障がい福祉サービス提供事業者は、障がい者に対する虐待等を防止するために、その従業者に対し、研修及び啓発を行うよう努めます。

### 9 障がい者の家族等に対する支援

県は、障がい者の家族等の日常生活における不安の軽減を図るため、障がい者の家族等に対し、情報の提供、相談の実施、助言その他の必要な支援を行います。

### 10 障がい者の社会参加

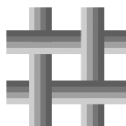
県は、障がい者の福祉に係る政策立案過程への障がい者の参加を促進するとともに、障がい者主体の活動の推進に努めます。

### 11 人材の確保、育成等

- 県は、障がい者の福祉に係る事業に従事する人材の確保、育成を図るため、情報提供、研修などを行うとともに、職場への定着を図るための措置を講じます。
- 県は、県民等に、障がい者の福祉に係る活動や仕事への関心を深めるための措置を講じます。

### 12 施行期日

この条例は、令和5年4月1日から施行します



ともに生きる社会  
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる福祉社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を助げるあらゆる場、いかなる福祉や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の発布に付いて、県民と共に取り組みます

ともに生きる

新子

### 逗子身障協

## 輝く七十年の歩み

逗子市 大石 忠おおいし ただし

令和四年十月二十六日(水)逗子市身体障害者福祉協会は、八年前からの「存続か解散か」揺れ動くなか、創立七十周年「感謝の集い」と題した記念式典を開催しました。

併せて万感の思いを込めた記念誌「輝く七十年の歩み」を発行、配布することができました。その目的は、次世代に「先人たちの身体障害者の福祉活動歴史」を残し、先輩たちの偉業に感謝と哀悼の意を表したかったのです。

表紙には、吉川英治の言葉「他者はすべて我が師なりけり」を掲げた。思えば昭和二十五年四月身体障害者福祉法の施行にともない県下各地域で団体結成の気運が高まりはじめた二十七年十月に創立されました。会員も当時一五〇人いましたが、現在は五十五人となりました。

昨今、会員の高齢化、障害の多様化、老障介護と役員のなり手が減少しています。しかし昭和、平成、令和と七十年にわたる障害者

の福祉活動の成果は平成二十五年障害者権利条約批准より国内法が整備され、共生社会の実現に継承されるでしょう。この七十年の歩みは、次世代に残せる唯一の資産です。

これからは障害者やその家族らの悲痛な叫びを社会に声を高く訴えていく時代です。つまり当事者の声を一、本年度施行される「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」に私たちの「希望」をゆだねたいと思います。

FAX  
〇四六(八七一)一一九〇  
までご連絡下さい

※送料のみご負担下さい。



### 令和四年度の綾瀬市

## 身障協会行事

綾瀬市 西川 和朗にしがわ かずお

コロナ感染症の流行も三年目に入り、少しずつ正常な生活が戻りつつあり、身障協会の行事も以前と比べて完全ではありませんが行われつつあります。

九月には、神奈川県バス「ともしび号」を借りて二十一名で「勝沼ぶどう狩り・買い物ツアー」を行いました。参加者はバスの定員の半分以下に制限されてはいましたが、天気にも恵まれて美味しい巨峰、昼食に舌鼓をうち、ワイン工場や道の駅での買い物に参加した会員の笑顔が見られて安心しました。

十月の「神奈川県身体障害者福祉大会」もクアーズテック秦野カルチャーホールで行われ、例年の



半分以下ですが綾瀬市から十六名が参加しました。

大会のほうも午前のみと言うものではありましたが、伊勢原市、綾瀬市の開催予定も中止になり三年目の開催になりました。会場の半分以上の空きがある座席は淋しいものがありますが、来賓の方々や秦野市の市長を始め関係者が多く参加してくれたことに感謝申し上げます。

十一月には、やはり三年ぶりに「綾瀬福祉レクリエーション大会」が開催され、人数制限や午前中のみという事もあり例年の半分十七名が参加しました。主催の綾瀬市社会福祉協議会の方々尽力により、久し振りに身体を動かすことができ快い疲労を感じました。



令和五年度は制限なしの行事が行われることを祈っています。



# 高尾山登山開催案内

令和五年度の高尾山登山事業は、七月十二日(水)に実施する予定です。高尾山登山は、以前行っていた富士登山から場所を変更して開催しており、多くの方々にご参加いただいております。

## 事業案内・報告

高尾山は、自然が豊かな山で、四季折々の雰囲気を感じる事ができ、毎年多くの観光客や登山客で賑わっています。現在、新型コロナウイルスの影響も以前と比べると、緩和されており、多くのイベントが開催されています。

収束に向かうことを信じ準備してまいりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



詳細につきましては、次のとおりです。

【期 日】七月十二日(水)

【場 所】高尾山(薬王院付近まで)

【申込方法】お住まいの各市町村身体障害者団体まで申込をお願いします。

【申込締切】六月十六日(金) 必着

【参加費】一人 四、〇〇〇円

※申込者多数の場合は、参加人数を調整させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

※バスの乗車場所については、参加申込締切後、各市町村ごとの申込状況を考慮して決定致します。

お問合せにつきましては、神奈川県身体障害者連合会までお願いします。

《県身連事務局》

TEL 〇四五(三二一) 八七三六

FAX 〇四五(三二六) 六八六〇

# 神奈川県障害者スポーツ大会

## スポーツ大会

令和五年度の第十七回神奈川県障害者スポーツ大会は、四月九日のアーチェリー・ボウリング競技会を皮切りに開幕しました。この大会は、全国障害者スポーツ大会への派遣選手候補者の選考を兼ねた県内最大のスポーツ大会です。

五月の陸上競技会までの申込みは締切となっておりますが、卓球(STT含む)競技は十一月、ボッチャ競技会の申込は十二月となっておりますので、一人でも多くのご参加をお待ちしております。

●卓球競技会(精神障害者) 期日 二〇二四年一月十九日(金) 会場 県立スポーツセンター 申込締切 十一月二〇日(月)

●卓球・サウンドテーブルテニス競技会(身体・知的障害者) 期日 二〇二四年一月二二日(日) 会場 県立スポーツセンター 申込締切 十一月二〇日(月)

●ポッチャ競技会 期日 二〇二四年二月三日(祝・金) 会場 県立スポーツセンター 申込締切 十二月十八日(月)

# 特別全国障害者スポーツ大会

## スポーツ大会

### 「燃ゆる感動がごしま大会」

令和五年度の全国障害者スポーツ大会は鹿児島県で開催されます。

神奈川県からの派遣人数は四十八名の派遣を予定しております。

個人競技の出場種目は、「ボウリング(知的)」、「アーチェリー(身体)」、「FD(身・知)」、「陸上(身・知)」、「卓球・STT(身・知・精)」、「水泳(身・知)」、「ボッチャ(身体)」です。

代表選手の選考については、県障害者スポーツ大会の結果を基に選考委員会を設置し、選考します。



燃ゆる感動がごしま大会

特別全国障害者スポーツ大会 熱い鼓動 風は南から 2023

さんぽみち

### 交通オジサン

#### (学童通学交通安全指導員)

相模原市 藤森 勝幸

星が丘小学校の学童下校時最寄りの交差点(歩車分離式)、信号を守り安全に下校できるように、交通安全の旗の元「GO」&「STOP」に努めています。旗振り、お話がありまして、担当副校長より説明を受けまして、「孫」もお世話になりましたし、引き受けました。

生徒数約八〇〇名。下校は一・二年生は十三時、三・四年生は十四時、五・六年生は十五時と授業に併せて、下校です。飛び出してくる生徒、集団でお話ししながら、また、ゆつくりのんびり歩いている生徒、一・二月でも半袖の生徒、上級生の中には、「ご苦労さん」「ありがとうございます」目線を合わせて挨拶をしてくれる生徒がいます、心が和みます。国の宝。  
皆ランドセルを背負っています。が結構重たいです。一人として同

じ柄はありません。車が安全に信号を守り、無事に通過することを願っています。

信号は心のゆとりを作るものです。学ぶべきは、邪心なく直な気持ちです。朝は校長、副校長が立っています。所属しています「シルバ人材センター」と教育委員会で、組織的に協力できないかなど、考えます。



#### みんなの広場

### デフ・キッズ

#### スキー・スノーボード交流会

聴覚部 河原 雅浩

当協会では、ろう児が大人のろう者と一緒に、スキー・スノーボードを通じて交流することを目的とした「デフ・キッズスキー・スノーボード交流会」を毎年開催しています。

今年、一月七日(土)〜九日(月)の二泊三日間、長野県の白樺湖ロイヤルヒルスキー場で行われ、子供十六人と保護者、スタッフ等合わせて四十五人が参加しました。

今回のメインイベントは、デフリンピックスノーボード日本代表選手との交流でした。彼らは、近くのスキー場でデフリンピックに向けて練習しているところ、わざわざ時間を割いて来てくれたのです。子供たち皆、デフリンピック代表選手と直接交流し、彼らの華麗な滑りを直に見ることができ、大変喜んでいました。将来、参加した子供たちの中からデフリンピック選手が生まれることを期待したいです。

三日間、天候にも恵まれ、大きなけがもなく、無事に交流会を終えることができました。

来年も開催する予定ですので、皆さんの地域に聞こえない、聞こえにくい子どもがいましたら、知らせてくださいるようお願いいたします。





# とちぎ大会 四年振り開催と感謝

藤沢市 畑木 美乃

大会へ出発する前日に田島支援学校桜校と川中島小学校や中学校恩師の先生と元校長、先生方や大好きなママと彼氏や大切な友人と後輩から、LINEの応援メッセージを送ってくれたり、ノートにも書いてくださいました。昨年と一昨年には、台風の影響やコロナの感染拡大で中止、一年の延期等多くありました。そこで一つの希望の光が見えたのは、四年振りに「いちご一会」とちぎ大会。宇都宮市で行われ、厳しいコロナ感染拡大防止のため、貴重な開会式と競技や閉会まで全国都道府県の選手、ライバルと出会う

い、心と身体がネバーギブアップ。三十日(日)青少年女子ソフトボール投げで、長野県・浜松市・三重県・愛知県・相模原市の選手も現れ、結果は三十m四十四cmで見事に三位の銅メダル。午後は、立ち幅跳びがあり、始まる前に、濱澤コーチと今泉コーチの女子三人で、一緒にスタジアム隣にある遊園地のジェットコースターに乗りましたが、直ぐに下を向いて硬直し、放心状態になり、少し泣きました。久々に乗って、プレッシャーや緊張が解れて、「誰かに負けても、自分には負けたくない」と考え、いざ立ち幅跳び！ソフトボール投げと同じメンバリー、愛知県、宮城県、浜松市、戸市の選手が強く私には、「ワクワクしてきたぞ！楽しんでいこう」結果は、一m七十八cmで、城島の選手に僅か二cmおよぼす位置。勝っても、負けても良い勉強、ライバルと多く出会って、四年度の大会を開催してくれて「ありがとう！」と言いたい気持ちです。長野県の選手が「また来年鹿兒島大会で会いましょう」と握手をして、友達を作って、一緒に記念写真を撮りました。神奈川県選団の早川さん、須藤さん、石川さん、相原さんにも出会って、新しい仲間が増えて嬉しかったです。支援学校桜校、川中島小学校、中学校恩師の先生や、陸上競技のコーチ、事務局の方々、ございました。応援していただき、とても感謝しています。私の

宝物です。

## 県身連事業予定

- <4月>  
 9日(日) 県障害者スポーツ大会アーチェリー競技会  
 (県総合リハビリセンターアーチェリー場)  
 県障害者スポーツ大会ボウリング競技会【AM】  
 (湘南とうきゅうボウル)  
 神奈川県身体障害者ボウリング大会【PM】  
 (湘南とうきゅうボウル)  
 16日(日) 県障害者スポーツ大会フライングディスク競技会  
 (県立スポーツセンター)  
 20日(木) 肢体部会 監査 (県社会福祉センター)  
 23日(日) 県障害者スポーツ大会陸上競技会(知的)  
 (県立スポーツセンター)  
 27日(木) 身障かながわ編集委員会  
 (県社会福祉センター)

- <5月>  
 10日(水) 県身連理事会 (県社会福祉センター)  
 14日(日) 県障害者スポーツ大会陸上競技会(身体)  
 (県立スポーツセンター)  
 17日(水) 社会参加推進協議会 (県社会福祉センター)  
 肢体部会 代議員会 (県社会福祉センター)  
 30日(火) 県身連評議員会(予定)

- <6月>  
 14日(水) 肢体部会かもめ教養講座並びに部長会議  
 (伊豆潮風館)  
 ~15日(木)  
 15日(木) 社会参加推進センター理解促進・普及啓発部会  
 (かながわ県民センター)

- <7月>  
 9日(日) 県障害者スポーツ大会水泳競技会  
 (さがみはらグリーンプール)  
 12日(水) 身体障害者高尾山登山 (高尾山)

※問い合わせ 電話：045-311-8736  
 FAX：045-316-6860

本会報及び事業案内は、  
 次の県身連HPに掲載されています。  
<http://kanagawa-kenshinren.or.jp>



イラスト：畑木 美乃



「家族」↑

### 編集室から

新型コロナウイルスの感染も落ち着き、三月十三日からマスク着用が個人の判断になり、センバツ高校野球では声出しの応援ができるようになり、社会はようやく少ずつ新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつあります。

思えば、新型コロナウイルスに振り回された三年間で、仕事や生活において様々な新しい様式が生まれてきた三年間でもありました。ICTを活用したオンライン会議やリモートワークもその一つです。

このオンライン会議やリモートワークは、移動に困難を抱えていた障害を持つ人にとって、移動を不要にする便利なツールでもありません。このように、ICTなどの新しい技術が、ICT活用されれば、我々障害を持つ人たちの可能性が広がります。社会参加も一層進むことが期待できます。

ただ、どのように活用していくかは、当事者である我々が中心にならなくてはなりません。要望していきましよう。

編集委員 河原 雅浩  
 (二宮町)



この会報は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。